

北京日本学研究中心

通

讯

《 第 23 号 》

责任编辑：市濑智纪 张龙妹 邮政编码：100081 Tel：8424893 1992.10.15

1993年硕士研究生招生简章

- 一、招生人数和研究方向：日本语言五名；日本文学五名；日本社会五名；日本文化五名。
- 二、学制和学位授予：学制两年半，其中半年赴日本学习，搜集资料，撰写论文。在学期间修完培养方案中所规定的各门课程，取得规定学分数，通过论文答辩者授予学位。
- 三、指导教师：中日学者和教授。
- 四、报考条件：按国家有关规定报考。
- 五、毕业分配：按国家有关规定统一分配。
- 六、考试科目：①基础日语；②专业科目；③综合考试（日本概况、汉语）；④英语；⑤马列主义理论。
- 七、报名日期：1992年11月10日～14日
考试日期：1993年1月9日～11日
报名地点：在当地省市招生办组织的报名地点报名。

简 讯

◇9月16日（三）9:00～10:30在“中心”接待室召开了本学期的实施委员会会议。“中心”代理主任李书成教授、现代日本研究班班主任教授田万苍分别就各自的本学期的工作重点作了介绍。着重就今后双方的合作进行了探讨。

◇9月16日（三）下午4:40国际交流基金理事长浅尾新一郎来“中心”访问。王福祥院长以及“中心”有关人员参加了接待。王院长介绍了上午实施委员会的有关情况。浅尾理事长对“中心”的工作给予了很高的评价，并表示以后将继续支持日研中心的发展。会见后浅尾理事长还参观了“中心”成立七年来的成果展览和阅览室等设施。

◇9月17日（四）14:30～16:30举办了第2次公开讲座，井上优先生（国立国语研究所研究员）作了题为「最近的日本文法研究」的演讲。

◇9月18日（五）18:00～20:00日方在全聚德和平门店主办答谢宴会。“中心”的教职员以及有关人员出席了宴请。

◇9月24日（四）14:30～16:30举办了第3次公开讲座，奥村隆平先生（名古屋大学副教授）作了题为「对外不均衡的经济学」的讲演。

◇9月28日（一）下午在“中心”接待室召开了“庆祝中日邦交正常化20周年座谈会”。在京的20余名从事日本学研究中坚人物出席了会议。

◇10月8日（四）14:00～16:00举办了第4次公开讲座，冲森卓也先生（立教大学教授）作了题为「日本語表記の成立」的讲演。

◇专题讲座：9月19日（六）、25日（五）、10月9日（五）北外院长王福祥教授、“中心”李书成教授、中日关系研究会副会长杨正光教授分别就「研究生阶段的学习和论文撰写」「建国以前的中国日本学研究」、「中日关系史的分期问题」作了专题报告。

◇出版信息：5月出版了第三届「日本学中日学术研讨会」论文集。9月出版了《中国日本学年鉴》（1992）。11月底12月初将出版《日本学研究2》。年底出版《日本学论丛Ⅲ》。

「座谈会」专家国庆节旅游体会

(10月1日~10月4日专家到杭州、绍兴、宁波旅游。下面是他们的体会)

吉田：与北方相比，南方可真富。湿度高、蚊子多。宁波很早以前就与日本有往来，那儿的天主堂别具一格。而且还有机会去了蒋介石的出生地。还有天一阁，真希望我也能有那么多的书。绍兴的绍兴饭店特别棒。

十川：杭州旅游者太多，没有前几年好。到了绍兴、宁波后心情才轻松些。好象哪儿的寺院都差不了多少。不过倒是真想去看看香炉峰。

吉田：这次还特意去看了王阳明墓，令我终生难忘。

犬饲：专家旅游不应该只是观光，应有充分的自由时间。老师们都希望能从社会学、文化学的角度看看中国陋巷里的风情。不过出发之前，误传说西湖特别冷，老师们身着长袖衣衫，个个汗流浹背。(笑)

日向：只有研究了天气预报后去旅游的柄泽老师穿了短袖。(笑)

犬饲：饭菜都特别好吃，尤其是做得极象的素菜。可是，虽然大家都知道“在中国吃生贝危险”，但仍有三名发生了险情。(笑)

日向：即使这样，仍有两个不吸取教训，继续吃生贝的。H老师和H君。(笑)

北京日本学研究中心 < 专题学术讲座 > 1992年秋学期

次数	时间	主讲人	题目
第4次	10月16日	李书成教授	明清时期的中国日本学研究
第5次	10月23日	程 教授	晚清民间文化
第6次	10月30日	周维宏讲师	日本农村工业化研究
第7次	11月6日	王家骅副教授	中日文化对比研究
第8次	11月13日	王家骅副教授	中日文化对比研究
第9次	11月20日	王家骅副教授	中日文化对比研究
第10次	11月27日	王家骅副教授	中日文化对比研究
第11次	12月4日	王家骅副教授	中日文化对比研究
第12次	12月11日	李 德教授	日本教育今昔

地点：北京日本学研究中心三层电教(1) 时间：14:00

☆专题讲座感想：9月19日举行的王院长的专题讲座对刚刚进入研究生阶段的学生有着非常重要的意义。王院长首先指出，撰写论文要有明确的观点和指导思想，并且根据自身的经验介绍了论文选题、搜集资料、制作卡片等方法，还介绍了二十世纪现代语言学研究的最新趋向。为我们今后的学习、论文写作提供了一个确实可行的方法。(一年级语言专业 薛 豹)

[通 訊 ・ 日 本 語 版]

1993年修士課程大学院生 募集要項

- 一、募集人数と研究分野 日本言語5名 日本文学5名 日本社会5名 日本文化5名
- 二、学制と学位の授与 2年6カ月制（半年は日本で学習し、資料を収集し、論文を作成する。）在学期間中に学則規定の各課程を修了し、所期の成績を収め、論文の答弁を終えた者に学位を授与する。
- 三、指導教授 日中双方の学者教授陣
- 四、応募の条件 国家の規定により募集
- 五、卒業後の配属 国家の規定により配属
- 六、試験科目 ①基礎日本語 ②専門科目 ③総合試験（日本概況、漢語）
④英語 ⑤マルクス主義理論
- 七、出願期間と受験日時 出願：1992年11月10日～14日 受験：1993年1月9日～11日
出願場所 省市の募集事務所が組織した出願場所において出願のこと。

[ニュース]

- ◇9月16日（水）9:00～10:30 本学接待室において今学期の実施委員会会議が開かれた。北京日本学研究中心主任代理の李書成教授と、北京大学現代日本研究班の田万蒼主任教授より、今学期の主要な計画についての紹介がなされ、重ねて今後の両機関の協力についての議論が交換された。
- ◇9月16日（水）10:40 より国際交流基金理事長浅尾新一郎氏が本学を訪問され、王福祥北京外国語学院院長及び本学の関係者の歓迎を受けた。まず王福祥院長は午前中に行われた実施委員会の概況を報告し、浅尾理事は本学の業績を高く評価した。また併せて日本学研究センターの発展に対する支持が表明された。会見後浅尾理事は閲覧室等の施設を訪れ、本学開学7年来の成果を参観された。
- ◇9月17日（木）14:30～16:30 第2回公開講座が開かれ、井上優氏（国立国語研究所研究員）により、「最近の日本語文法研究」と題する講演が行われた。
- ◇9月18日（金）18:00～20:00 日本側主催による答礼宴会が、全聚徳和平門店にて行われ、本学の教職員、関係者が多数参加した。
- ◇9月19日（土）25日（金）10月9日（金）王福祥教授、李書成教授、及び楊正光教授による学術專題講座が開催され、「研究生の段階の学習と、論文の書き方」「建国以前の中国における日本学研究」「日中関係史の分期問題」と題する講演があった。
- ◇9月24日（木）14:30～16:30 第3回公開講座が開かれ、奥村隆平氏（名古屋大学経済学部助教授）により、「対外不均衡の経済学」と題する講演が行われた。
- ◇9月28日（月）午後、本学接待室において日中国交正常化20周年を記念する座談会が開催され、在北京の日本学研究に従事する中堅の学者20余名がこの会に出席した。
- ◇10月8日（木）14:30～16:30 第4回公開講座が開かれ、沖森卓也氏（立教大学文学部教授）により、「日本語表記の成立」と題する講演が行われた。
- ◇[出版ニュース] 本年5月、本学より『第3回中日日本学シンポジウム論文集』が出版され、9月には『中国日本学年鑑』（1992年）が出版された。11月末から12月初旬にかけて『日本学研究』2、本年末には『日本学論叢』Ⅲを継続出版の予定である。

Ⅷ [座談会] 専 家 国 慶 節 旅 行 の 体 験 Ⅷ

(10月1日～10月4日、専家は杭州・紹興・寧波を訪問した。以下はその体験談である)

吉田：南方は北と違って豊かですね。湿度が高くて蚊が多い。寧波は昔から日本と関係がある所で、天主堂がよかった。蒋介石の生家にも行きました。天一閣は、僕もあれくらい本を持ちたいと思います。紹興は紹興飯店がすばらしかったです。

十川：杭州はちょっと人擦れして昔より悪くなったね。紹興や寧波へ行ったらほっとしました。お寺はどこも大体同じなんです。香炉峰を見に行きたかったな。

吉田：僕はわざわざ王陽明の墓を訪問して感激でした。

犬飼：専家の旅行は単なる観光旅行ではなく、自由時間をたっぷりとった方がいいですね。先生方は裏町を社会学的、文化学的な視点で見たいんで。ところで旅行に行く前に、西湖はものすごく寒くて底冷えがするという某先生の誤った情報が流れ、先生方は西湖で長袖姿で汗だくになっていました(笑)。

日向：天気予報を研究してから旅行に行った、柄沢先生だけ半袖だった(笑)。

犬飼：料理はなんでもおいしかったのですが、今回は贖物尽くしの極致である精進料理を食べられたのがよかった。しかし『中国で生の貝を食べるのは危ない』という教訓があるにもかかわらず、生貝を食べて、約3名危険な状況に陥った先生方がおられました(笑)。

日向：それでもなおかつ生貝を食べ続けた人が2人いました。H先生とHさんです(笑)

北京日本学研究センター < 専 題 学 術 講 座 > 1992年・秋学期

第4回	10月16日	李書成 教授	明清時期の中国における日本学研究
第5回	10月23日	程 歆 教授	晩清の民間文化
第6回	10月30日	周維宏 講師	日本農村の工業化の研究
第7回	11月6日	王家驊 助教授	日中文化の対比研究
第8回	11月13日	王家驊 助教授	日中文化の対比研究
第9回	11月20日	王家驊 助教授	日中文化の対比研究
第10回	11月27日	王家驊 助教授	日中文化の対比研究
第11回	12月4日	王家驊 助教授	日中文化の対比研究
第12回	12月11日	李 德 教授	日本の教育の今昔

於：北京日本学研究センター3階電教室(1) 時間14:00

☆ 専 題 学 術 講 座 の 感 想

9月19日に開かれた王福祥院長の専題講座は、大学院に入ったばかりの学生にとって、とても重要な意義を持つものだと思います。王院長は、論文の書き方には明確な視点と指導的思想が必要であると指摘され、さらに御自身の経験から、論題のつけ方、資料の集め方、カードの取り方などを紹介されました。また20世紀の現代言語学研究の新しい趨勢についても紹介されました。私たちの今後の学習と論文の作成に、確実に役に立つ方法を与えて下さったと思います。

(一年生 言語専攻 薛 豹)